

令和2年2月7日（金）現在

新学習指導要領の下での学習評価について
＜説明資料＞

期日：令和2年2月7日（金） 15:00～16:45

会場：群馬県総合教育センター講堂

群馬県教育委員会義務教育課

I 指導と評価の一体化を目指した学習評価について

1 学習評価の改善の基本的な方向性

指摘されている課題

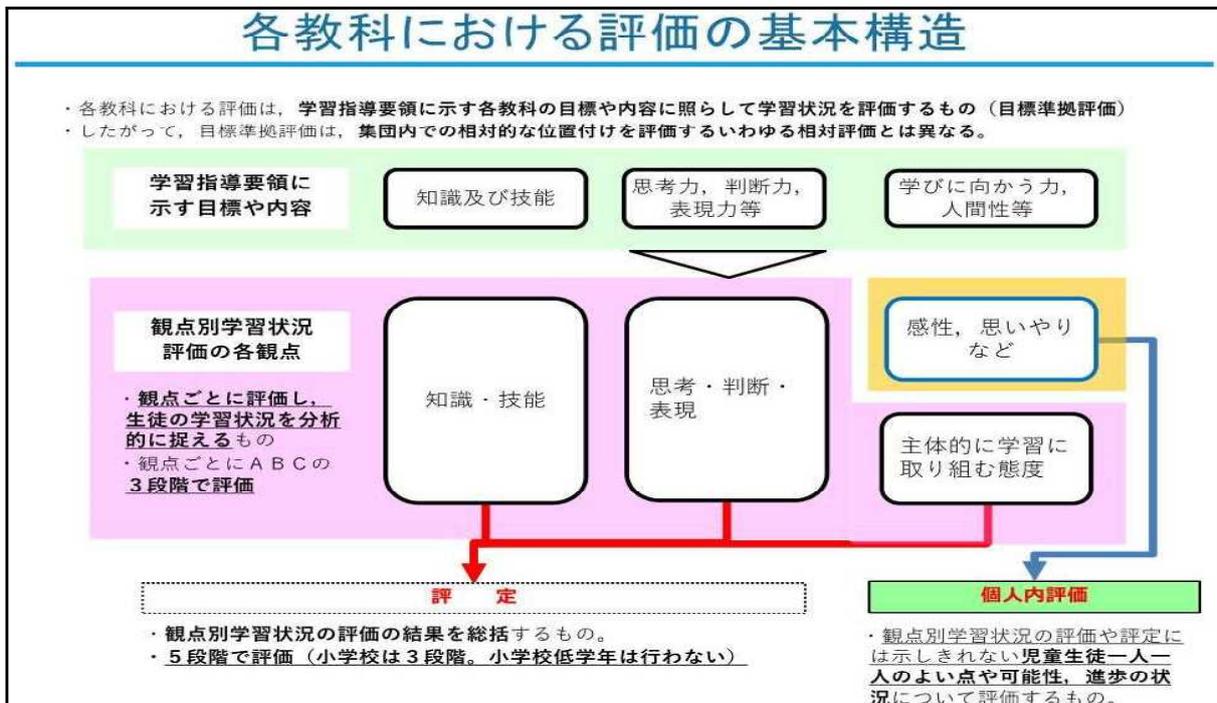
- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭されていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につながりにくい。
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

- 学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることを踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとするのが重要である。
- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
 - ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
 - ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
- 観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。

*小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
平成31年3月29日 30文科初第1845号より

2 平成29年改訂学習指導要領における各教科の学習評価について

学習指導要領の各教科等における目標や内容については、資質・能力の三つの柱に基づいて再整理された。観点別学習状況の評価については、こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、4観点から3観点到整理された。各教科における評価の基本構造を図示化すると、以下ようになる。



*「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（案）（小学校・中学校）

令和元年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センターより

3 指導要録の主な改善点について

文部科学省は、平成31年3月29日付 30文科初第1845号通知により、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校の指導要録の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録作成に当たっての配慮事項等を取りまとめた。（各市町村教育委員会あてに通知済み。）

→ P3参照：指導要録 参考様式（様式2 指導に関する記録）

4 観点別学習状況の評価の評定への総括について

令和元年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（案）
（小学校・中学校） 第1編 第2章 1（6）観点別学習状況の評価の評定への総括＜一部抜粋＞

A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「BBB」であれば2を基本としつつ、「AAA」であれば3、「CCC」であれば1とするのが適当であると考えられる。中学校については、「BBB」であれば3を基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要がある。

平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
3 （2）観点別学習状況の評価の改善について ＜一部抜粋＞

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって、行うものであり、その評価の結果を、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に関わる教師の指導や児童生徒の学習の改善にも生かすことによりバランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要である。すなわち、この観点のみを取り出して、例えば挙手の回数など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要である。

～途中省略～

○ この考え方に基づけば、単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末、学年末の結果として算出される3段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差は生じないものと考えられる。仮に、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、児童生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童生徒への支援を行い、児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められる。

5 その他

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（平成31年3月29日付 30文科初第1845号）より

4. 学習評価の円滑な実施に向けた取組について

(8) 今後、国においても学習評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県教育委員会等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
	〇〇立〇〇中学校	学級				
		整理番号				

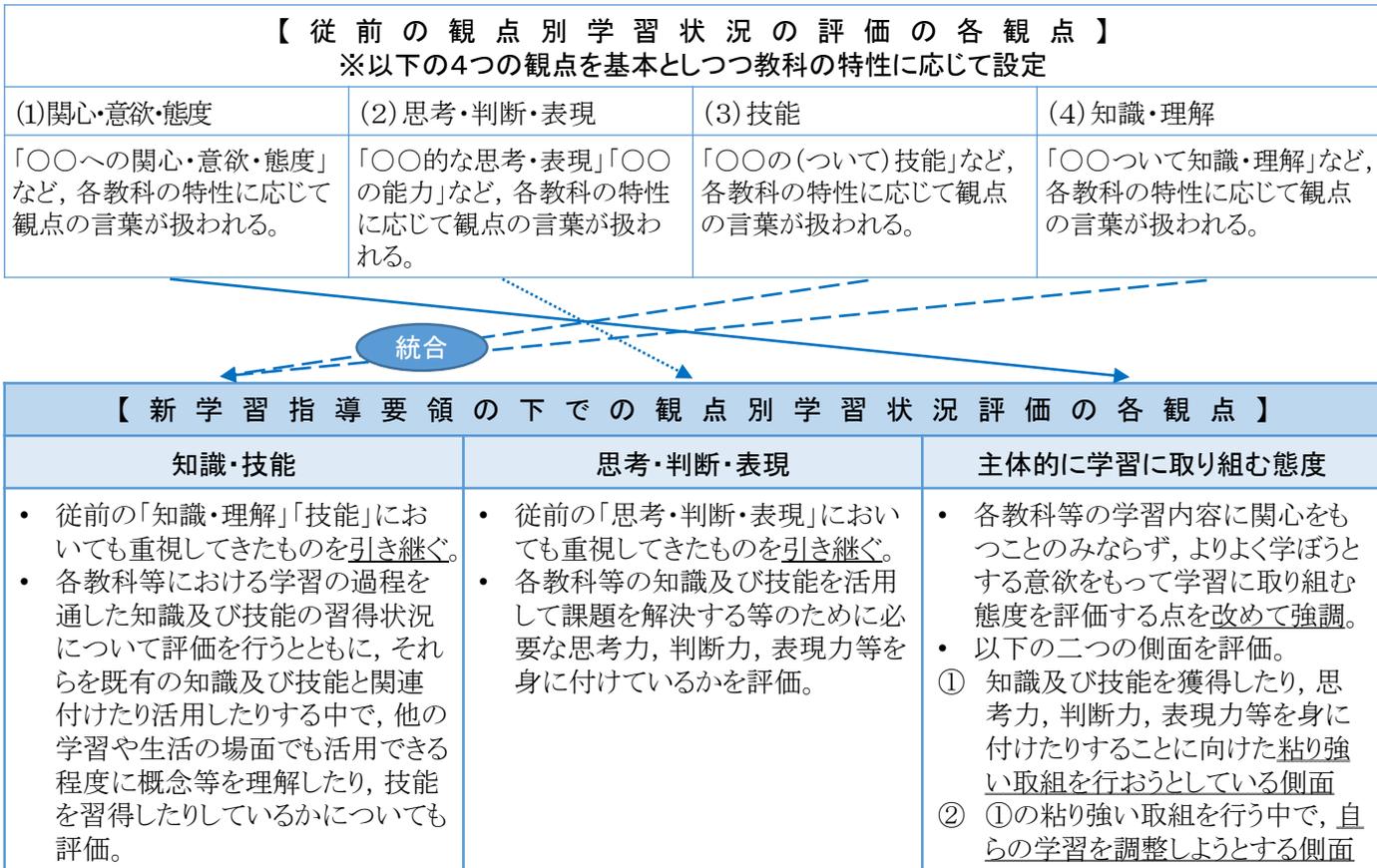
各教科の学習の記録																							
教科	観点	学年	1	2	3	教科	観点	学年	1	2	3												
国語	知識・技能					知識・技能																	
	思考・判断・表現						思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度						主体的に学習に取り組む態度																
	評定						評定																
社会	知識・技能					特別の教科道徳																	
	思考・判断・表現					学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子																
	主体的に学習に取り組む態度					1																	
	評定					2																	
数学	知識・技能					3																	
	思考・判断・表現					総合的な学習の時間の記録																	
	主体的に学習に取り組む態度					学年	学習活動	観点	評価														
	評定					1																	
理科	知識・技能					1																	
	思考・判断・表現				2																		
	主体的に学習に取り組む態度																3						
	評定																						
音楽	知識・技能					2																	
	思考・判断・表現				3																		
	主体的に学習に取り組む態度																特別活動の記録	内容	観点	学年	1	2	
	評定																				学級活動		
美術	知識・技能					1																	
	思考・判断・表現				生徒会活動																		
	主体的に学習に取り組む態度																学校行事						
	評定																						
保健体育	知識・技能					2																	
	思考・判断・表現				3																		
	主体的に学習に取り組む態度																						
	評定																						
技術・家庭	知識・技能					1																	
	思考・判断・表現				2																		
	主体的に学習に取り組む態度																3						
	評定																						
外国語	知識・技能					2																	
	思考・判断・表現				3																		
	主体的に学習に取り組む態度																						
	評定																						

Ⅱ 各教科等共通の学習評価の考え方について

1 従前の観点と新学習指導要領の下での評価の観点の関係について

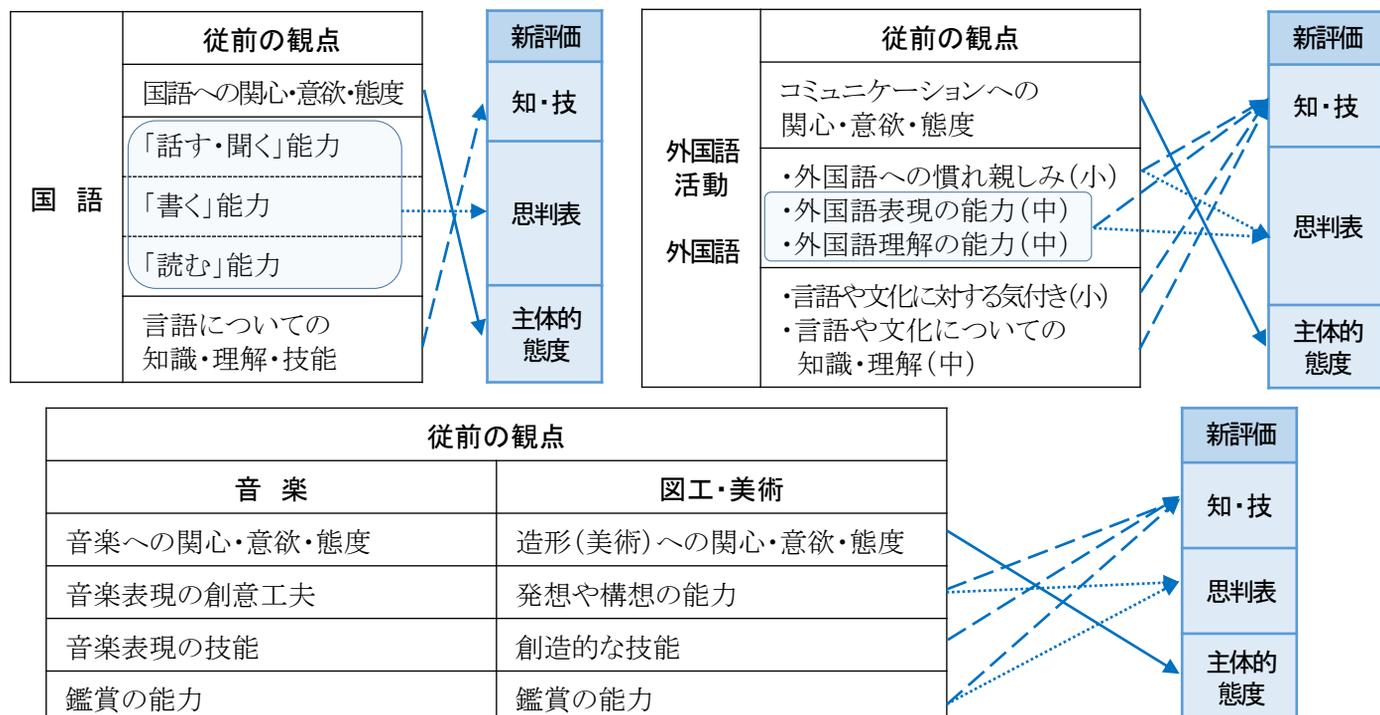
(1) 従前の観点と新学習指導要領の下での評価の観点の基本的な関係

下の図は、従前の観点と新学習指導要領の下での評価の各観点の基本的な関係を示したものです。



(2) 従前の観点から新学習指導要領の下での評価の観点への変更が大きい教科

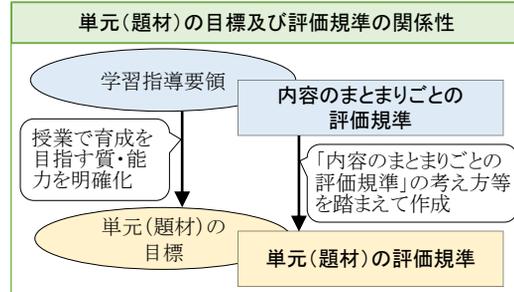
下記の教科等については、従前の観点の在り方が他教科とは異なります。従前の観点と新学習指導要領の下での評価の各観点との関係について、そのイメージを図として示しました。



※各教科等における「知識」と「技能」の関係や、「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な姿など各観点の詳細については、教科等別の資料参照。

2 各教科等の「内容のまとめり」と「単元及び題材」の関係について

各学校で行われる評価規準の作成は、各教科等の「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方などを踏まえ、作成することが基本となります。各教科等の「内容のまとめりごとの評価規準」は、年度末までに、国立教育政策研究所より示される予定になっています。各教科等における「内容のまとめり」と実際の学習の「単元及び題材」とは、必ずしも、同義はならない場合があるため、評価規準を作成する際には、留意する必要があります。



A 「内容のまとめり」＝「単元及び題材」

「内容のまとめり」と「単元及び題材」が同じ大きさの場合は、「内容のまとめりごとの評価規準」を「単元及び題材の評価規準」として、置き換えて考えることが可能な教科等もあります。

【例】

小算数 第2学年 「C 測定」時間の単位 ＝ 単元「時刻と時間」
 小理科 第5学年 「A 物質・エネルギー」(3)電流がつくる磁力 ＝ 単元「電流が生み出す力」 など

B 「内容のまとめり」＞「単元及び題材」

「内容のまとめり」が、複数単元及び題材で構成されるため、「内容のまとめりごとの評価規準」の記載事項を基に、それを細分化しつつ具体化して「単元及び題材の評価規準」を設定していきます。

【例】

小社会 第4学年「人々の健康や生活環境を支える事業」＞ 単元「水はどこから」、「ごみの処理と利用」
 小体育 第5学年及び第6学年「E ボール運動」＞ 単元「ゴール型(サッカー)」「ネット型(ソフトバレーボール)」「ベースボール型(ティーボール)」 など

※各教科書の区切り方や各校の指導計画により、単元及び題材の分け方が異なることに留意する必要があります。

国語、音楽、図工(美術)、外国語のように、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力に基づき、その活動に即した教材や活動(言語・表現等)を設定し、単元及び題材を構想する教科等は、各教科で示された「内容のまとめりごとの評価規準」を参考にして、その具体化を図ります。(詳細は、教科等別の資料参照)

3 単元及び題材の観点別学習状況の評価の進め方について

【学習評価の改善の基本的な方向性】(平成31年3月29日付 文部科学省通知)

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣習として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価の円滑な実施に向けた取組の1つとして、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示されました。

このことから、各教科等の単元及び題材の指導計画を作成する際には、児童生徒の学習状況を記録に残す「**評定に用いる評価**」場面を精選し、位置付けていくこととなります。そして、教師は、記録した評価情報を基に、単元及び題材の観点別学習状況の評価の総括をすることとなります。

評価したことを記録に残す「**評定に用いる評価**」場面以外の時間については、従来と同様に、教師は、学習の目標(ねらい)を達成した児童生徒の学習状況を具体的に想定し、学習活動を通してその姿を見取り、必要があれば指導、支援するなどして、学習状況の改善を図っていきます。

「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す)

- 評価したことを指導に生かしつつ、評価したことを記録し、評価情報を総括します。
- 毎回の授業ではなく、原則として単元を見通して目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場면을精選するが、その重点が置かれる場面は、各教科等に特性に応じて異なるため留意する必要があります。

「指導に生かす評価」 (学習状況を見取る)

- 児童生徒の学習状況を見取り、必要があれば教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。
- 各単位時間の「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取る場面は必ずあります。
- 児童生徒の成長を促し、資質・能力の確かな育成を図る評価を実施することが大切です。

学校における働き方改革が喫緊の課題になっていることも踏まえ、学習評価を真に意味のあるもの(児童生徒の学習改善、教師の指導改善などの「**指導と評価の一体化**」)にするとともに、妥当性や信頼性を確保していくことが、今後も引き続き、重要となります。

【中学校理科】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>Aに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知-①】 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか</p> <p>【知-②】 観察や実験などに関する基本操作や結果の記録や整理、活用の仕方を身に付けているか</p>	<p>〇〇について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現している科学的に探究している。</p> <p>【思】 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか</p> <p>1年 問題を見いだし</p> <p>2年 解決する方法を立案して</p> <p>3年 探究の過程を振り返るなど</p>	<p>〇〇に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p> <p>【態】 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしているか</p>

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動

ふれる・つかむ

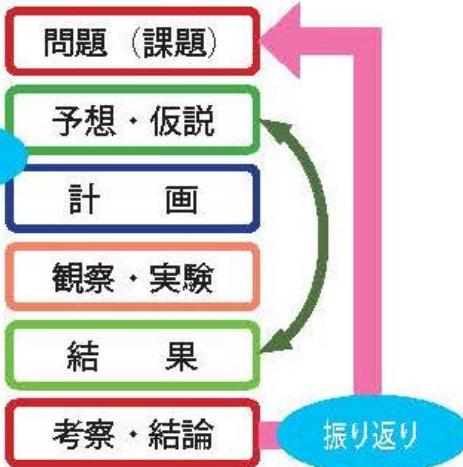
1 自然事象に働きかけ、単元の課題をつかむ。

◇対象となる自然事象について知っていることを発表する。
◇自然事象に触れ、気づきや疑問を共有する。

【単元の課題】
〈単元全体で解決する大まかな内容〉

2 問題解決(探究)の過程に沿って観察・実験を行い、問題(課題)を解決する。

問題解決の過程(探究の過程)



次の問題解決(探究)の過程

次の問題解決(探究)の過程

3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。

単元のまとめ

◇単元の課題について振り返り、分かったことを図や言葉でまとめる。
◇学習内容を別の自然事象に適用したり、ものづくりをしたりする。

まとめる

評価の場面(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知-①】 単元の学びに必要な知識や技能 記</p>	<p>【思】 課題の設定</p>	
<p>探究の過程</p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p> <p>【思】 記 科学的に探究する力</p> <p>【知-②】 記 器具の操作や、結果の記録</p> <p>【態】 科学的に探究しようとする態度</p>		
<p>【知-①】 記 概念や原理・法則についての理解</p>		<p>【態】 記 習得した知識及び技能を活用して、課題を解決しようとする態度</p>

主に学習活動において、児童の学習状況をみとり、評価をすることになるので、単元が、問題解決的な学習でない限り、評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」
(評価したことを記録に残す = **記**)

・目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面を精選します。
・知識・技能の技能面、思考、判断・表現については、観察、実験の中や、その前後で学習状況を捉えます。

目標	(1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (2) 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。 (3) 状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養うこと。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、状態変化と熱、物質の融点と沸点の物質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	身の回りの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

過程	時間	◎ねらい・課題	☆振り返り・考察・結論(意識)	重点	記録	備考	
ふれる・つかむ	1	○身近な状態変化に触れたり、状態変化についての説明を聞いたりすることを通して、単元の課題をつかむ。	☆状態変化するとき体積や質量はどうなるんだろう。 ☆状態変化にはどんなきまりがあるんだろう。	知	○	・物質の状態変化は、状態が変わるだけで、物質そのものは変化しないことを理解している。 [記述分析]	
	【単元の課題】物質が状態変化するときには、どのようなきまりがあるのだろうか。						
	1	○エタノールの状態変化の様子を基に、ロウの状態変化について予想することを通して、実験への見通しをもたせる。 物質の状態が変化するとき、体積と質量はどうなるだろうか。	☆エタノールが液体から気体へと状態変化するとき、体積がすごく増えるんだな。 ☆気体になれば、質量が減るのではないかな。	思		・ポリエチレンの袋が膨らむ様子から、エタノールを加熱して状態変化が起こると、体積が増えることを表現している。 [記述分析] 指導に生かす評価	
追究する	1	○ロウの状態変化についての観察、実験を通して、体積は変化するが質量は保存されることを見いだして理解させる。	☆ロウは状態変化しても質量は変化しないけど、体積は液体から固体になると減るのだな。	思	○	・ロウの状態が変化する際、体積は変化するが質量は保存されることを見いだして表現している。 [行動観察、記述分析]	
	1	○状態変化について粒子のモデルで説明することを通して、状態変化を粒子の運動の様子と関連	☆温度が変化すると物質の粒子の集まり方が変化するから、状態変化するんだな。	態		・物質の状態変化を粒子の運動と関係付けて、粒子のモデルを使って説明しようと	

	<p>付けてが理解させる。</p> <p>物質の状態変化を、粒子を使ったモデルで表すとどうなるだろうか。</p>	<p>☆状態変化しても質量が変わらないのは、粒子の数が変わらないからなんだな。</p>			<p>している。 [記述分析]</p>
追 究 す る	<p>1 ○エタノールが沸騰するときの温度を測定することを通して、純物質は状態が変化している間は温度が変化しないことを理解させる。</p> <p>物質を加熱したとき、水の場合と同じような温度の変わり方になるのだろうか。</p>	<p>☆エタノールも水と同じように状態変化している最中は温度は一定になることが分かった。</p> <p>☆エタノールの沸点は水より低いのだな。物質によって、沸点は違うのかな。</p>	知	○	<p>・エタノールを加熱したときの温度変化を時間ごとに記録し、結果を正しくグラフに表すことができる。</p> <p>[記述分析]</p> <p>記録に残す評価</p>
	<p>1 ○物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知り、ある温度のときの様々な物質の状態を考えることを通して、融点や沸点の測定により未知の物質を推定できることを理解させる。</p>	<p>☆物質によって融点や沸点が決まっているんだな。</p> <p>☆融点や沸点を調べれば、何の物質なのかが分かるのだな。</p>	知		<p>・物質の状態が変化する温度は物質ごとに決まっていることを理解している。</p> <p>[記述分析]</p>
	<p>1 ○エタノールの状態変化の様子を基に、ロウの状態変化について予想することを通して、実験への見通しをもたせる。</p> <p>加熱をすることで、赤ワインをエタノールと水に分けられないだろうか。</p>	<p>☆エタノールと水は沸点が違うから、加熱すれば分けられるのではないかな。</p> <p>☆2つの液体が混ざっているから、一緒に気体になって出てきてしまって分けられないのではないかな。</p>	思		<p>・固体と液体の混合物との違いに着目し、液体の混合物の分離に関する問題を見いだそうとしている。</p> <p>[行動観察、記述分析]</p>
	<p>1 ○沸点が異なることを利用して、2種類の液体の混合物から物質を分離できることを見いだして理解させる。</p>	<p>☆沸点の違いを利用すれば、液体の混合物も分けられるのだな。</p>	思	○	<p>・赤ワインを蒸留した結果を分析して解釈し、沸点の違いにより物質の分離ができることを見いだして表現している。</p> <p>[記述分析]</p>
ま と め る	<p>1 ○身近な状態変化について、その仕組みや原因を説明する活動を通して、日常生活との関わりの中で状態変化を捉え直させる。</p> <p>アルミ缶のリサイクル方法を説明しよう。</p>	<p>☆アルミニウムを加熱して液体にすれば、自由に形を変えてリサイクルできるんだな。</p> <p>☆日常生活の中で、他にも状態変化が利用されているものがないか、知りたいな。</p>	態	○	<p>・習得した知識・技能を活用して、物質の状態変化と日常生活や社会と関連された課題を粘り強く解決しようとしている。</p> <p>[行動観察、記述分析]</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

※日々の授業の中で生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、生徒全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が特徴的な生徒の学習状況を確認する必要がある。

中学校理科の評価について

【中学校理科】
単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け(例)

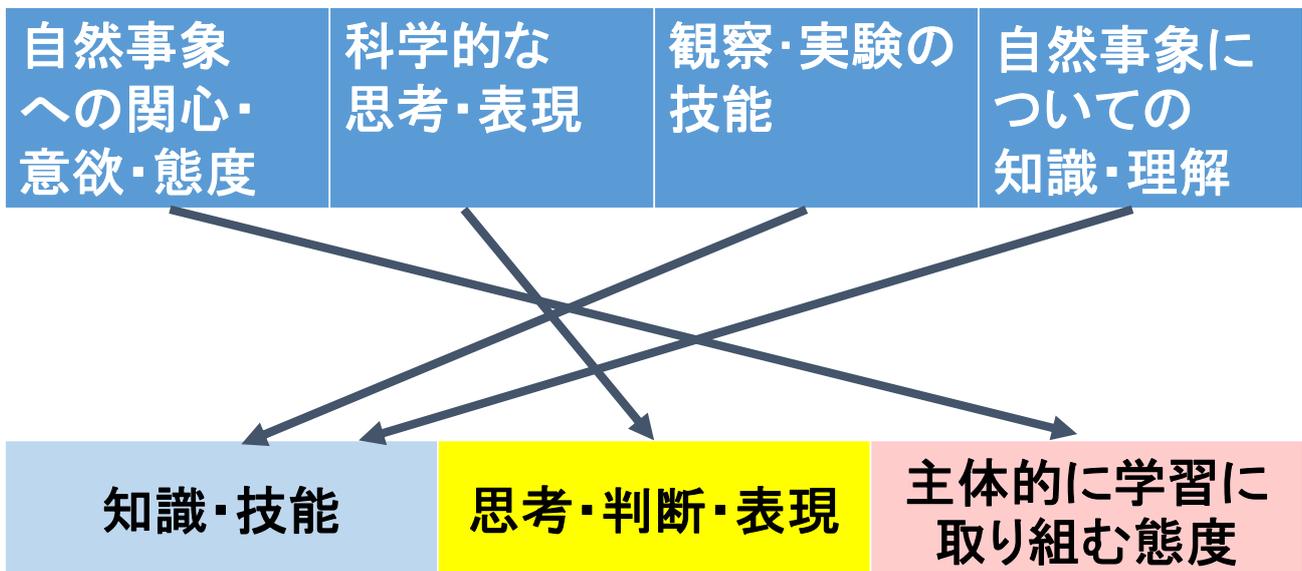
評価標準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>④に関する事象・現象を日常生活や社会に関連付けながら、先と背を推察していることなど、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けているか</p> <p>【知-①】 自然の事象・現象についての基本的な概念や概念・法則などを理解しているか</p> <p>【知-②】 観察や実験などに際する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けているか</p>	<p>④⑤について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を思いがけて表現している科学的に探究しているか</p> <p>【思】 科学的に探究する過程において、思考・判断・表現しているか</p> <p>1年 問題を思いだし、</p> <p>2年 解決する方法を立案して</p> <p>3年 探究の過程を振り返るなど</p>	<p>④に関する事象・現象に遠んで関わり、見通しをもったり振り返りなどを行うなど、科学的に探究しようとしているか</p> <p>【態】 自然の事象・現象に遠んで関わり、科学的に探究しようとしているか</p>

はばたく群島の指導プランII 単元のつくり方

評価の場面(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
<p>1 自然現象に働きかけ、単元の課題をつかむ。</p> <p>④対象となる自然現象について知っていることを発表する。</p> <p>⑤自然現象に對し、気付きや疑問を共有する。</p> <p>【単元の課題】 (単元全体で解決する大まかな内容)</p>	<p>【知-①】 単元の学びに必要な知識や技能</p> <p>【思】 課題の設定</p>	<p>【態】 「課題に生かす評価」 (学習状況を見取る)</p> <p>全ての単元時間において、「ねらい」に照し、児童生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。</p>
<p>2 問題解決(探究)の過程に沿って観察・実験を行い、問題(課題)を解決する。</p> <p>問題解決の過程(探究の過程)</p> <p>問題・課題</p> <p>予想・仮説</p> <p>計画</p> <p>観察・実験</p> <p>結果</p> <p>考察・結論</p> <p>振り返り</p> <p>次の問題解決(探究)の過程</p> <p>次の問題解決(探究)の過程</p>	<p>探究の過程</p> <p>各単元時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p> <p>【思】 科学的に探究する力</p> <p>【知-②】 器具の操作や、結果の記録</p> <p>【態】 科学的に探究しようとする態度</p>	<p>「探究に生かす評価」 (探究の様子を記録に導く)</p> <p>目標の実現状況が子供の反応の観察で見られる場面を精選します。</p> <p>知識・技能の技術面、思考、判断・表現については、観察、実験の様子、その過程で学習状況を捉えます。</p>
<p>3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。</p> <p>単元のまとめ</p> <p>④単元の課題について振り返り、かかったことが目今言葉でまとめ、</p> <p>⑤学習内容を別の自然現象に適用したり、ものづくりをしたりする。</p>	<p>【知-①】 概念や法則・法則についての理解</p> <p>【態】 探究・実験及び技術的活用で、課題を解決しようとする態度</p>	<p>「探究に生かす評価」 (探究の様子を記録に導く)</p> <p>目標の実現状況が子供の反応の観察で見られる場面を精選します。</p> <p>知識・技能の技術面、思考、判断・表現については、観察、実験の様子、その過程で学習状況を捉えます。</p>

1 評価の観点の関係

【従前の評価の観点】



【新しい評価の観点】

2 理科の内容のまとめ

大項目	(1) 身近な物理現象
中項目	(ア) 光と音
小項目	① 光の反射

大項目 ... 内容のまとめ
 中項目 ... 単元

3 単元の観点別学習状況の評価

【中学校理科】

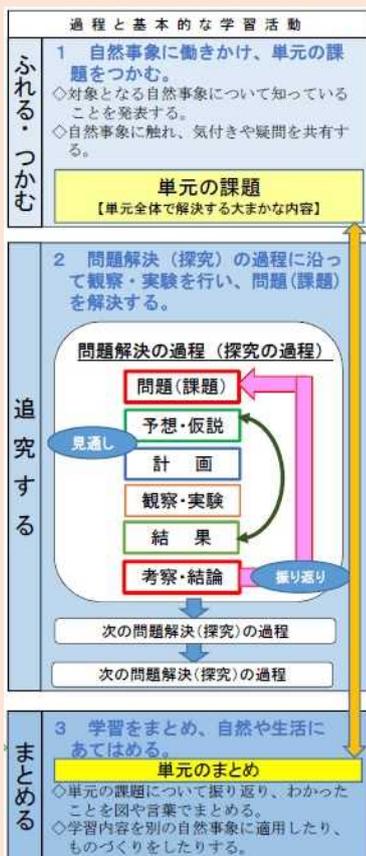
単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
AIに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○○について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現している科学的に探究している。	○○に関する事物・現象に進んで関わり見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
【知-①】 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか 【知-②】 観察や実験などに関する基本操作や結果の記録や整理、活用の仕方を身に付けているか	【思】 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか 1年 問題を見いだす 2年 解決する方法を立案して 3年 探究の過程を振り返るなど	【態】 自然の事物・現象に進んで関わり科学的に探究しようとしているか

3 単元の観点別学習状況の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言 ・ 記述の内容 ・ ペーパーテスト <p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 記述の内容 ・ パフォーマンステスト ・ ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言 ・ 記述の内容 ・ ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言 ・ 記述の内容 ・ 行動の観察

3 単元の観点別学習状況の評価



ふれる・つかむ

追究する

【探究の過程】

- ・ 観 察
- ・ 実 験

課 題

予想・仮説

計 画

観察・実験

結 果

考察・結論

まとめる

3 単元の観点別学習状況の評価

評価の場面(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知-①】 単元の学びに必要な知識や技能	【思】 課題の設定	
<p>探究の過程 各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
【知-②】 器具の操作や、結果の記録	【思】 科学的に探究する力	【態】 科学的に探究しようとする態度
【知-①】 概念や原理・法則についての理解		【態】 習得した知識及び技能を活用して、課題を解決しようとする態度

主に学習活動において、児童の学習状況を見取り、評価をすることになるので、単元が、問題解決的な学習でない限り、評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」
(学習状況を見取る)
全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化の充実」

「評価に用いる評価」
(評価したことを記録に残す)
= 記
・目標の実現状況が子供の反応から顕著に見られる場面を精選します。
・知識・技能の技能面、思考、判断・表現については、観察、実験の中や、その前後で学習状況を捉えます。

関心・意欲・態度



主体的に学習に取り組む態度

4 評価の実際

指導計画 理科 第1学年 単元名「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(全9時間計画)

目標	(1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。		
	(2) 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見だして表現すること。		
	(3) 状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養うこと。		
評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規準	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、状態変化と熱、物質の融点と沸点の物質の規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	身の回りの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の実際(指導に生かす評価)

過程	時間	◎ねらい・課題	☆振り返り・考察・結論(意識)	重点	記録	備考
ふれる・つかむ	1	○身近な状態変化に触れたり、状態変化についての説明を聞いたりを通して、単元の課題をつかむ。 【単元の課題】物質が状態変化するときには、どのようなきまりがあるのだろうか。	☆状態変化するとき体積や質量はどうなるだろう。 ☆状態変化にはどんなきまりがあるだろう。	知	○	・物質の状態変化は、状態が変わるだけで、物質そのものは変化しないことを理解している。 [記述分析]
	1	○エタノールの状態変化の様子を基に、ロウの状態変化について予想することを通して、実験への見通しをもたせる。 物質の状態が変化するとき、体積と質量はどうなるだろうか。	☆エタノールが液体から気体へと状態変化するとき、体積がすごく増えるんだな。 ☆気体になれば、質量が減るのではないかな。	思	○	・ポリエチレンの袋が膨らむ様子から、エタノールを加熱して状態変化が起こると、体積が増えることを表現している。 [記述分析] 指導に生かす評価
探究する	1	○ロウの状態変化についての観察、実験を通して、体積は変化しますが質量は保存されることを見いだして理解させる。	☆ロウは状態変化しても質量は変化しないけど、体積は液体から固体になると減るのだな。	思	○	・ロウの状態が変化する際、体積は変化するが質量は保存されることを見いだして表現している。 [行動観察、記述分析]

4 評価の実際(記録に残す評価)

		付けてが理解させる。 物質の状態変化を、粒子を使ったモデルで表すとどうなるだろうか。	☆状態変化しても質量が変わらないのは、粒子の数が変わらないからなんだな。			している。 [記述分析] 中学校・理科
探究する	1	○エタノールが沸騰するときの温度を測定することを通して、純物質は状態が変化している間は温度が変化しないことを理解させる。 物質を加熱したとき、水の場合と同じような温度の変わり方になるのだろうか。	☆エタノールも水と同じように状態変化している最中は温度は一定になることが分かった。 ☆エタノールの沸点は水より低いのだな。物質によって、沸点は違うのかな。	知	○	・エタノールを加熱したときの温度変化を時間ごとに記録し、結果を正しくグラフに表すことができる。 [記述分析] 記録に残す評価
	1	○物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知り、ある温度のときの様々な物質の状態を考えることを通して、融点や沸点の測定により未知の物質を推定できることを理解させる。	☆物質によって融点や沸点が決まっているんだな。 ☆融点や沸点を調べれば、何の物質なのかが分かるのだな。	知	○	・物質の状態が変化する温度は物質ごとに決まっていることを理解している。 [記述分析]

4 評価の実際

ま と め る	1	○身近な状態変化について、その仕組みや原因を説明する活動を通して、日常生活との関わりの中で状態変化を捉え直させる。 アルミ缶のリサイクル方法を説明しよう。	☆アルミニウムを加熱して液体にすれば、自由に形を変えてリサイクルできるんだな。 ☆日常生活の中で、他にも状態変化が利用されているものがないか、知りたいな。	態	○	・習得した知識・技能を活用して、物質の状態変化と日常生活や社会と関連された課題を粘り強く解決しようとしている。 [行動観察、記述分析]	

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

※日々の授業の中で生徒の学習状況を把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、生徒全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が特徴的な生徒の学習状況を確認する必要がある。

【評価例】「振り返りシート」の記述を基にした評価

- ・「どのような知識及び技能を活用したか」
- ・「誰とどのように対話したか」
- ・「何に気付いたか」

【中学校外国語科】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け 〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ○○について理解している。 <技能> △△について○○を用いて、□□を～～する技能を身に付けている。 【知技】 ○○の理解 ○○の正しい活用	☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を～～している。 【思判表】 課題解決に向けた言語活動	☆☆のために、△△について、簡単な語句や文を用いて□□を～～しようとしている。 【態度】 他者へ配慮しながら、課題解決しようとする態度
・「話すこと」について、音声の特徴を捉えて話していることについては、特定の単元等で扱うのではなく、「話すこと」の指導全体を通して適宜評価する。	・日常的な話題や社会的な話題について、目的、場面、状況のある言語活動において評価する。	・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元ではなく、年間を通じて評価する。

※○○は言語材料、△△は事柄・話題、□□は内容、☆☆は目的

「思考・判断・表現」は目的、場面、状況のある言語活動の中で評価されるため、はばプラIIで示す単元の課題を設定した問題解決的な授業が不可欠です。

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

課題提示型

- ◇単元の課題に出会う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。
※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
- ※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

A

「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。

B

新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。

C

教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

<例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
単位時間		
○ C 教科書の活用については、「ねらい」によっては評価することもあります。		
A	B 【知技】	C 【知技】 【思判表】 【態度】
	単位時間	
	単位時間	
	単位時間	
【知技】	【思判表】	【態度】

「指導に生かす評価」 (学習状況を継続的に見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。
《形成的評価》

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」 (評価したことを記録に残す)

= **記**

- ・単元末における課題解決にせまる言語活動で、当該単元で学習する言語材料を使用しないこともあるため、言語材料を指定しない場合は、「追究する過程」で評価する。
- ・外国語科では指導した結果として、できるようになったことを評価するため、単元の後半に評価することが多くなります。

目標	自分のあこがれの人物について内容を整理し、相手にわかりやすい形でその人物の偉業や歴史、言動とともに自分の考え、気持ちなどをまとめ、英語で紹介記事を書くことができる。		
	言語材料 (文法等)	評価規準	目的等
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと ・やり取り	<p><知識> 後置修飾の文構造について理解している。</p> <p><技能> 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p> <p>事柄・話題</p>	<p>自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。</p> <p>事柄・話題</p>
書くこと	<p><知識> 後置修飾の文構造について理解している。</p> <p><技能> 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って自分の思いや考えを書く技能を身に付けている。</p>	<p>自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って、自分の思いや考えを書いている。</p>	<p>自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って、自分の思いや考えを書こうとしている。</p>

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	評価			
				知技	思判表	態度	◇評価規準 <方法(観点)>
つかむ	1	<p>○既習事項を用いて自分のあこがれの人物についての紹介文を書く活動を通して、どのようなことを紹介したら良いかを考えるようにする。</p> <p>今まで習ったことを使って試しの活動に取り組み、新しい単元での目標を立てよう。</p> <p>【単元の課題】ALTに自分のあこがれの人物について記事を書いて紹介しよう。</p>	<p>☆新しい単元では、自分のあこがれの人物について紹介するのだな。今まで習ったことでも書けるぞ。でも、もっと言えることが増やせるといいな。</p>				※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
追究する	2	<p>○教科書本文の内容理解の現在分詞や過去分詞の後置修飾の働きを確認できるように教科書 P70 の本文の内容を認識して音読できるようにする。</p> <p>【評価したことを指導に生かす】</p>	<p>印がない箇所は各単位時間において目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。ただし、教師が指導改善を行うための形成的評価は行う。(指導と評価の一体化)</p>				内容を読人やものる表現がアメリカのったの
	3	<p>○現在分詞の後置修飾をし用いて表現し、使い方を覚える。</p> <p>前時の授業で出てきた新しい用いて表現し、使い方を覚えるだろう。</p>	<p>○形成的評価(例) 後置修飾の文構造を学習したが、テーマについてペアで思いや考えを伝え合う際に、後置修飾を使えない生徒が見られたため、Small Talk前にドリル的な練習を行ってから、Small Talkで活用させる。</p>				作をして説明するんだぞ。紹介する。
	4	<p>○過去分詞の後置修飾を含む表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにする。</p> <p>前時の授業で出てきた新しい表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにする。</p>	<p>☆日は、何かをされた人やものを説明する言い方について学んだぞ。人物や絵を紹介する時に使えそうだな。</p>				

中学校・外国語

	<p>5 ○教科書本文の内容理解の学習を通して、関係代名詞の省略による後置修飾の使用場面や働きを確認できるようにする。</p> <p>教科書 P72 の本文の内容を理解し、場面を意識して音読できるようになろう。</p>	<p>☆今日も教科書の内容を読んで、後ろから人やものを詳しく説明する表現が出てきたな。凄いエピソードが出てきたな。</p>		
	<p>6 ○関係代名詞の目的格の省略の後置修飾を含む表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにする。</p> <p>前時の授業で出てきた新しい表現を繰り返し用いて表現し、使い方を理解できるようにしよう。</p>	<p>☆前の単元で学んだこととほとんど同じだけど、今日確認した言い方も人物を詳しく説明するときに使えそうだな。</p>	や	<p><知識> 後置修飾の文構造について理解している。 <技能> 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>
	<p>7 ○キング牧師について教科書本文を読んで内容を理解するとともに、 8 ・どのようなことを書けば充実した人物紹介につながるか考えられるようにする。</p> <p>キング牧師について書かれた紹介文を読んで内容を理解し、自分が紹介するときに有効な情報を考えよう。</p>	<p>紹介記事を読んでみて、英語で偉人を紹介するときは、偉業や歴史、自分の意見や考えを伝えるといいのだな。</p>		
まとめる	<p>9 ○後置修飾を適切に用いながら自分のあこがれの人物についての紹介記事を書けるようにする。</p> <p>助言を生かして表現や内容、構成を工夫しながら自分のあこがれの人物の紹介文を書いてみよう。</p>	<p>☆教科書のキング牧師の紹介記事や、授業で勉強した人物を詳しく説明した言い方を使って、紹介文を書けばいいのだな。</p>	書	<p><知識> 後置修飾の文構造について理解している。 <技能> 自分のあこがれの人物について、その人の偉業や言葉などを整理し、演説に関わる新出語彙や後置修飾の文を使って自分の思いや考えを書く技能を身に付けている。</p>
	<p>10 ○友達と即興的に自分のあこがれの人物について書いた英文を読み合う活動を通して、内容を深められるようにする。</p> <p>聞いている人が興味を持てるように、注目している国について、調べたことをわかりやすく伝え合おう。</p>	<p>☆友達の紹介文を読むと、理由の言い方や、具体的な情報、自分の意見が入っている方が読んでいて興味をもてるな。</p>	N や や	<p><思判表> 自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p>
	<p>11 ○友達の助言を生かしてよりよい表現や内容、構成を工夫し、自分のあこがれの人物の紹介記事を書けるようにする。</p> <p>助言を生かして表現や内容、構成を工夫しながら自分のあこがれの人物の紹介文を書いてみよう。</p>	<p>☆「昨日もらった助言や、自分が読んで考えたことを生かして、あこがれの人物の紹介記事をより詳しく書けたな。」</p>	書 書	<p><思判表> 自分のあこがれの人物を知ってもらうために、その人の偉業や言葉などを整理し、簡単な語句や文を使って、自分の思いや考えを書いている。</p>

※「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を参考にして作成

外国語の評価の対応関係

令和2年2月7日(金)現在

【 従前 → 新 】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、 コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、 自分の考えなどを表現している。 <発信>	外国語を聞いたり読んだりして、 話し手や書き手の意向などを理解している。 <着信>	外国語の学習を通して、 言語やその運用についての知識を身に付けている とともに、その背景にある文化などを理解している。
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて コミュニケーションを図ろうとしている。

外国語の評価の対応関係

令和2年2月7日(金)現在

【 従前 → 新 】

【 従前 】

【 新 】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションを図ろうとしている

外国語表現の能力
言語材料を正しく活用できる<正確な発信>
自分の考えを伝えることができる<適切な発信>

外国語表現の能力
言語材料を正しく活用できる<正確な着信>
相手の考えを理解できる<適切な着信>

言語や文化についての知識・理解
言語材料についての知識を身に付けている

技能 **知識・技能**

言語材料についての知識を身に付けている

言語材料を正しく活用できる<正確な発信>

言語材料を正しく活用できる<正確な着信>

思考・判断・表現

自分の考えを伝えることができる<適切な発信>

相手の考えを理解できる<適切な着信>

主体的に学習に取り組む態度

コミュニケーションを図ろうとしている

目的・場面・状況のある言語活動において